2025 年 11 月 14 日

関係各位

一般社団法人 ワクチン問題研究会
代表理事　福島 雅典

平素より、国民の健康と科学・技術行政にご尽力いただき、深く敬意を表します。

このたび、2025 年 11 月 11 日付日本経済新聞記事「mRNA ワクチン中止『誤りだ』」における複数の不正確な記述および政策的に看過できない発言について、添付の抗議文にて正式に訂正と説明を求めるものです。

本抗議文の背景には、単なる表現上の問題だけでなく、科学の暴走、情報の非公開、不確実性の軽視が引き起こす社会的被害の深刻さがあります。

この点に関連し、近々の国際的に重要な証言として、米国 CDC 元所長 Robert Redfield 氏がインタビューで以下の趣旨を明言しております。

“This pandemic was actually caused by science.”
このパンデミックは、科学によって引き起こされた。

Redfield 氏は、「①SARS-CoV-2 が実験室由来の改変ウイルスである可能性、②当時の米国研究指導層による隠蔽行為、③新たな H5N1 変異株に対する深刻な懸念」を明確に指摘しています。これらは、gain-of-function（GOF）研究や遺伝子操作技術に関する国際的リスク評価の重大性を示すものであり、同じく遺伝子導入技術を基盤とする mRNA-LNP 製剤の規制枠組みの不備や透明性の欠如を改めて問題提起するものです。

歴史を振り返れば、原子爆弾も「科学者によって創られ」、その被害は政府によって拡大されました。Redfield 氏の証言は、科学界の沈黙・隠蔽・加担が悲劇を繰り返す可能性を強く示唆するものです。

今回の問題は、「技術を推進するか停止するか」という二者択一ではなく、不確実性を正しく扱うための、科学・行政・報道それぞれの責務が問われています。

関係機関におかれましては、事実関係の確認・必要な訂正・透明性確保のための速やかな対応をお願い申し上げます。

国民の生命・健康を守るためには、科学的不確実性を最も謙虚に扱う姿勢こそが、行政と学術の信頼を支える基盤となります。

本件につきましては、日本の生命科学、並びに医療、国民の健康に関わる重大な内容ですので、関係者の方々にも広く情報提供させていただきます。

以上、何卒よろしくお願い申し上げます。

https://jsvrc.jp/　兵庫県宝塚市川面 5-10-32-205　toiawase@jsvrc.jp